

平成29年度指定管理運営業務評価票

施設名称：大阪府立近つ飛鳥博物館等	指定管理者：大阪府文化財センター・近鉄ビルサービスグループ	指定期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日	所管課：大阪府教育庁 文化財保護課
-------------------	-------------------------------	---------------------------	-------------------

評価項目	評価の基準（内容）	指定管理者の自己評価 （11月記入）		施設所管課の評価 （12月記入）		評価委員会の指摘・提言	
			評価 S～C		評価 S～C		
I 提案の履行状況に関する項目	(1) 施設の設置目的及び管理運営方針	<p>◇館の設置目的及び提案内容に沿った管理運営がなされているか</p> <p>○資料の収集、整理、保管、展示</p> <p>○歴史、文化等に関する教育への寄与</p> <p>○大阪の魅力の発信 ・大阪府内所蔵資料の公開</p> <p>○豊富な資料の活用 ・大阪府文化財センター所蔵資料の公開</p> <p>○調査研究による最新の成果の発信 ・館報の刊行1回 ・図録の刊行3回</p> <p>○国際的な研究交流・情報交換</p>	<p>○資料の収集、整理、保管、展示 展示室内の温湿度を24時間、データ集積し、変化を監視。国重要文化財「修羅」の点検を3月に予定。紫金山古墳・南塚古墳出土品の保存状態点検を12月に実施予定。</p> <p>○歴史、文化等に関する教育への寄与 学校教育との緊密な連携（校外学習の受け入れや出前授業）により、考古学や教育学の専門家が具体的な素材を用いてわかりやすく解説することにより、社会教育施設である博物館の役割を果たし、歴史・文化等に関する教育に充実に寄与した。</p> <p>○大阪の魅力の発信 夏季企画展に百舌鳥・古市古墳群をとりあげた。また、冬季特別展に河南町高貴寺を取り上げる予定である。</p> <p>○豊富な資料の活用 春季特別展において1件20点、秋季特別展において6件55点の文化財センター保管資料を公開した。</p> <p>○調査研究による最新の成果の発信 図録を2冊刊行した。冬季特別展については解説書を委託販売する予定。『館報21』を3月に刊行予定。</p> <p>○国際的な研究交流・情報交換 国内外の研究者と研究交流を行った。 来館研究者212名（うち海外の研究者5名）。</p> <p>◎自己評価 当館の使命のひとつである古墳時代に関する理解を深めるための展覧会を開催し、春季・夏季・秋季の各展覧会では来館者から好評を得た。また学校教育への参加も増加している。加えて、講座や論文の執筆を通じ、学芸員の専門性を活かした最新の研究成果の公開を行うことにより館の使命を果たすことができた。よって、施設の設置目的及び管理運営方針に対する達成状況はおおむね良好である。</p>	A	<p>○資料の収集、整理、保管、展示 温湿度管理や定期点検等により、資料の適切な管理・活用が行われている。</p> <p>○歴史、文化等に関する教育への寄与 小中学校の受け入れ(26回)、出前授業(58回)等、計画を上回る実施状況である。</p> <p>○大阪の魅力の発信 大阪府内の遺跡に関する展示の開催により、府内所蔵資料の公開がなされている。</p> <p>○豊富な資料の活用 数多くの大阪府文化財センター保管資料が展示資料として活用されている。</p> <p>○調査研究による最新の成果の発信 評価基準を満たす見込みである。</p> <p>○国際的な研究交流・情報交換 中国・韓国の研究者を含む多くの研究者が訪れ、活発な研究交流が行われている。</p> <p>◎施設の設置目的及び管理運営方針にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。特に、学校教育への寄与では計画を上回る実施事業であるほか、調査研究の成果を活かした展示・講座等が実施されている。</p>	A	「大阪の魅力発信」について、河南町の高貴寺を展示でとりあげた点は、古墳・考古学だけのテーマではない新たな試みとして、高く評価できる。

<p>(2) 平等な利用を図るための具体的手法・効果</p>	<p>◇公平なサービス提供と対応、障がい者・高齢者への配慮がなされているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者、障がい者等への利用援助 ○子どもにもわかりやすい解説の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども向け解説・リーフレットの提供等 20回 ○外国人利用者へ配慮したサービスの実施 	<p>○高齢者、障がい者等への利用援助 支援学校の校外学習に際して、柔軟な対応で解説や体験メニューを実施したほか、障がい者の健康面に配慮し、機器用電源や休憩室を必要に応じて確保した。</p> <p>○子どもにもわかりやすい解説の充実 夏季企画展を小中学生でも関心の持ちやすいテーマとしたほか、各展覧会では子ども向け解説パネルの作成を進めた。 子ども向け解説・リーフレットの提供等 27回</p> <p>○外国人利用者へ配慮したサービスの実施 英語、中国語、韓国語による館内の案内を配布するとともに、音声ガイドの利用を積極的に案内した。また特別展において一部のキャプションに英語表記を加えた。</p> <p>◎自己評価 支援学校の校外学習では生徒の状況にあわせ、柔軟に施設を利用してもらった。また、夏季は生徒の夏休み期間という特性にあわせた展覧会を実施し、古墳時代について生徒の家族と共に積極的に伝えることができ、公平なサービス提供を行った。</p>	<p>A</p> <p>○高齢者、障がい者等への利用援助 施設の利用における援助、展示等の理解を促進する事業が実施されている。</p> <p>○子どもにもわかりやすい解説の充実 進捗状況は 135%であり、既に評価基準を大きく超えている。</p> <p>○外国人利用者へ配慮したサービスの実施 外国語のパンフレットや音声ガイドにより外国人利用者への配慮がなされている。</p> <p>◎平等な利用を図るための具体的手法・効果にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。また、「子ども向け解説・リーフレットの提供等」は目標を大きく超えており、子どもの展示への理解促進が積極的に図られている。</p>	<p>A</p> <p>障がい者への配慮等、充実した取組みがなされている。</p>
<p>(3) 利用者の増加を図るための具体的手法・効果</p>	<p>◇利用者増加のための工夫がなされているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別展・企画展の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数/開催日数 4回/200日 ○「でかける博物館」事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・館外における講演会、講座 42回 ・出張展示 4回 ・出前事業（小中学校）46回 ○学校教育との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の受入件数 27回 ・児童はにわ展の実施 1回 ・「子ども館長」の任命 1回 ・学校教育の発表の場の提供 1回 ○「府民が参加する博物館」事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・近つ飛鳥ギャラリー13回 	<p>○特別展・企画展の充実 3回/150日を開催し、年間では 4回/200日を開催予定。</p> <p>○「でかける博物館」事業の実施 館外における講演会、講座を 38回実施した。 出張展示を 2回実施し、53,014人の観覧者を得た。 出前事業（小中学校）を 58回実施した。</p> <p>○学校教育との連携 小中学校の受入件数 26回、児童はにわ展の実施 2回、「子ども館長」の任命 1回 2名、学校教育の発表の場の提供として「古墳の森コンサート」2回を実施した。</p> <p>○「府民が参加する博物館」事業の実施 近つ飛鳥ギャラリーを 11回開催し、年度内 13回の開催を予定。</p>	<p>A</p> <p>○特別展・企画展の充実 冬季特別展の開催により、評価基準を満たす見込みである。</p> <p>○「でかける博物館」事業の実施 進捗状況は、「講演会、講座」90%、「出張展示」50%、「出前事業」126%であり、「出張展示」を除き評価基準を満たす見込みである。</p> <p>○学校教育との連携 いずれも評価基準を満たしており、超える見込みのものもある。</p> <p>○「府民が参加する博物館」事業の実施 評価基準を満たす見込みである。</p>	<p>S</p> <p>入館者数、館外利用者とも増加しており、高く評価すべきである。</p>

	<p>○多様なニーズに応える事業の実施 ・「入門講座」「土曜講座」の実施</p> <p>○「風土記の丘」の積極的な活用 ・「古墳時代まつり」の実施</p> <p>○入館者数、館外利用者数及び風土記の丘利用者数 ・総入館者数 94,200 人 ・館外利用者数 19,700 人 ・風土記の丘利用者数 96,600 人 【参考】平成 28 年度実績 ・総入館者数 90,025 人 ・館外利用者数 35,247 人 ・風土記の丘利用者数 105,023 人</p> <p>○利用者満足度調査の結果 ・「満足」「やや満足」の割合 90%</p>	<p>○多様なニーズに応える事業の実施 当館学芸員による入門講座、土曜講座を 16 回実施（年間 24 回開催予定）。</p> <p>○「風土記の丘」の積極的な活用 「古墳時代まつり」を開催し、うめまつり、さくらまつりの開催を予定。</p> <p>○入館者数、館外利用者数及び風土記の丘利用者数 ・総入館者数 68,751 人（昨年同月比 110%） ・館外利用者数 67,912 人（同 327%） ・風土記の丘利用者数 68,970 人（同 97%）</p> <p>○利用者満足度調査の結果 春季特別展：満足：69.7%（やや満足とあわせ 93.3%） 夏季企画展：満足：62.9%（やや満足とあわせ 95.5%） 秋季特別展：満足：65.5%（やや満足とあわせ 94.8%）</p> <p>◎自己評価 利用者の増加を図るため、障がい者、子どもへの配慮に加えて、外国人利用者に対しても既存のコンテンツをより利用していただけるよう Web サイトの英文頁を改善するなど、公平なサービスの提供を行った。また、利用者の期待に応えるよう様々な事業を実施し、おおむね目標を達成する見込みである。よって、利用者の増加を図るための具体的手法・効果に対する達成状況はおおむね良好である。</p>	<p>○多様なニーズに応える事業の実施 「入門講座」「土曜講座」が継続的に実施されている。</p> <p>○「風土記の丘」の積極的な活用 「風土記の丘」を活用した様々な事業が実施されている。</p> <p>○入館者数、館外利用者数及び風土記の丘利用者数 進捗状況は、「総入館者数」73%、「館外利用者数」345%、「風土記の丘利用者数」71%であり、評価基準を満たす見込みであるほか、すでに大きく超えているものがある。</p> <p>○利用者満足度調査の結果 評価基準を満たす見込みである。</p> <p>◎利用者の増加を図るための具体的手法・効果にかかる評価 「出張展示」開催回数のみ評価基準に満たない見込みであるが、「館外利用者数」はすでに評価基準を大きく超えている。また、「出前事業」でも評価基準を大きく超える見込みである。</p>	
<p>(4) サービスの向上を図るための具体的手法・効果</p>	<p>◇サービスの向上が図られているか</p> <p>○Web の活用 ・ホームページ更新回数 110 回</p> <p>○館外における資料の活用</p> <p>○れきしウォークの実施 ・実施回数 6 回</p>	<p>○Web の活用 ホームページ更新回数 85 回</p> <p>○館外における資料の活用 国立民族学博物館、大阪府立狭山池博物館で出張展示を行ったほか、ショッピングモールなどを会場とした家族向けイベントにおいてワークショップを開催した。</p> <p>○れきしウォークの実施 実施回数 5 回（年間 7 回実施予定）</p>	<p>A</p> <p>○ Web の活用 進捗状況は 77%であり、評価基準を満たす見込みである。</p> <p>○館外における資料の活用 館外での展示やワークショップにより、館蔵資料が広く活用されている。</p> <p>○れきしウォークの実施 評価基準を超える見込みである。</p>	<p>S</p> <p>利用者の意見を反映した「れきしウォーク」の回数増は、特に高く評価できる。</p>

	○解説シートの作成、展示解説の実施	○解説シートの作成、展示解説の実施 展覧会ごとに解説シートを作成し、配布した。また学芸員による展示解説を 18 回実施した。 ◎自己評価 Web サイトでは新たに Facebook の利用を開始し、より即時的な情報の発信に努めた。また、英文ページの内容を順次更新するなど、情報の発信を進めた。またれきしウォークでは利用者の求めに応じて回数を増やすなど、各分野でサービスの向上を図ることができた。よって、サービスの向上を図るための具体的手法・効果に対する達成状況はおおむね良好である。		○解説シートの作成、展示解説の実施 展示への理解の促進につながる解説シートの作成、展示解説が実施されている。 ◎サービスの向上を図るための具体的手法・効果にかかる評価 すべての評価基準を満たし、「れきしウォーク」は評価基準を超える見込みである。また、新たに SNS も活用されていること、館外における資料の活用において多数の館外利用者があり館の広い周知につながっていることから、全体として計画を上回る実施状況と評価できる。		
(5) 新しい展示テーマ・運営手法の実行	◇魅力あるテーマ選定、運営手法がとられているか ○ニーズに応えたテーマ設定と図録刊行 ・来館者数に対する図録販売数割合 10% ○最新の成果の発信 ・スポット展示等による最新情報の発信 開催回数/開催日数 2回/30日	○ニーズに応えたテーマ設定と図録刊行 展示観覧者数 14,888 人に対し、 1,787 冊の図録を販売し、購入割合は 12% となった。 ○最新の成果の発信 スポット展示は 1 回の開催にとどまるが、日数を 71 日（予定）と長くとることができた。 ◎自己評価 最新の研究成果を反映した展覧会のテーマ設定により、展覧会観覧者の好評を得たほか、通信販売を含む図録の購入割合は高く、魅力あるテーマ設定を行うことができた。またスポット展示では公開機会の少ない資料を取り上げ、長期間の開催とし、より多くの利用者への見学の益に供した。よって、よって、新しい展示テーマ・運営手法の実行に対する達成状況は計画をうわまわる実施状況である。	S	○ニーズに応えたテーマ設定と図録刊行 評価基準を超える見込みである。 ○最新の成果の発信 開催日数は 237% と評価基準を大きく超える見込みである。 ◎新しい展示テーマ・運営手法の実行にかかる評価 評価基準を超える見込みである。また、利用者の満足度が高い魅力ある特別展・企画展が実施されていること、スポット展示では科学分析結果を踏まえた最新の成果が発信されていることから、全体として計画を上回る実施状況と評価できる。	S	考古学ではないテーマも取り上げたことが新しい客層の来館につながっている。
(6) 他機関等との相互協力	◇提案内容に沿った相互協力がなされているか ○博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携 ・博物館との連携 5 件 ・地元市町村との連携 20 件 ・考古学専攻大学との連携事業の実施	○博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携 他館との連携として出張展示 2 件に加え、模型製作への協力 1 件、広報・ワークショップでの連携 1 件、講座への講師派遣 3 件、共同シンポジウムの開催 1 件、計 8 件を行った。地元市町村との連携として各種事業での後援をはじめ、連携講座などの事業を 15 件実施した。考古学専攻大学との連携としては古墳の測量実習に協力したほか、関西大学と連携し、百舌鳥・古市古墳群の紹介映像の作成・公開を行った。また、地元の大阪芸術大学とは各学科の実習や課題製作において協力した。	A	○博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携 進捗状況は、博物館との連携 160% 、地元市町村との連携 75% であり、大学との連携も実施されていることから評価基準を満たす見込みである。	A	施設所管課の評価は妥当である。

		◎自己評価 他機関との相互協力事業の実施により、博物館活動の周知を進め、活動の幅を広げることができた。よって、他機関等との相互協力に対する達成状況はおおむね良好である。		◎博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。また、様々な機関との多様な連携事業が館の内外で実施されている。		
(7) 施設及び資料の維持管理の内容、的確性	◇施設・設備の維持・安全管理計画は適切か ○施設管理 ・年間計画の策定と適切な実施 ○危機管理 ・マニュアルの策定 ・訓練の実施 ○定期点検の実施 ・記録簿の作成	○施設管理 ・共同指定管理者である近鉄ビルサービスとの緊密な情報交換のもとに策定された施設管理年間計画に従い、施設管理を行った。冷暖房機器、警報機器、昇降機等において故障が生じた場合、近鉄ビルサービスによる迅速な修復が行われる体制をとっている。 ○危機管理 ・火災、その他災害の予防および危機事象発生における対応について定めた、危機管理対応マニュアルを策定した。 ・富田林市消防署河南分署の指導による自衛消防訓練を12月に実施予定。 ○定期点検の実施 ・施設管理を一元的に受け持つ近鉄ビルサービスにより、総合ビルメンテナンスの専門的見地から、施設・設備の保守定期点検を実施し、記録簿を作成した。 ◎自己評価 博物館施設、設備、館蔵資料については、近鉄ビルサービスとの緊密な連携により適正に維持管理を行った。これにより、来館者の見学環境及び資料の保存・展示環境を良好に保つことができた。また、適切な危機管理体制によって、安全な施設管理が行えた。	A	○施設管理 年間計画が策定され、計画に沿った施設管理が実施されている。 ○危機管理 危機管理対応マニュアルの策定、防災訓練の実施が適切になされている。 ○定期点検の実施 施設・設備の定期点検が適切に実施され、記録簿の作成がなされている。 ◎施設及び資料の維持管理の内容、的確性にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。また、施設の老朽化による機器の故障等の際にも、迅速な連絡と対応がとられている。	A	施設所管課の評価は妥当である。
(8) 府施策との整合	◇提案に沿った府施策との整合が図られているか ○百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録推進事業への協力 ・関連遺跡資料の展示数10遺跡 ○「こころの再生」府民運動への協力 ・「こどもファーストデイ」の実施12回	○百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録推進事業への協力 夏季企画展を「百舌鳥・古市古墳群を世界遺産に！」として開催し、7遺跡148点の出土品を含む最新の調査研究成果を取り上げるとともに、官民協力しての推進活動をひろく紹介した。また、世界文化遺産推進関連の事業にも積極的に参加し、講座や見学会の受け入れ、映像資料の作成などにも協力した。 ○「こころの再生」府民運動への協力 ・「こどもファーストデイ」の実施8回（年間12回予定）毎月第3土曜日を「こどもファーストデイ」とし、工作を中心としたワークショップを実施した。	A	○百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録推進事業への協力 進捗状況は70%であり、評価基準を満たす見込みである。 ○「こころの再生」府民運動への協力 評価基準を満たす見込みである。	S	「こころの再生府民運動」のワークショップは非常に充実している。

	<p>◇就職困難者等の雇用・就労支援が実施されているか</p> <p>◇府民・NPOとの協働がなされているか ○府民協働による事業の充実</p> <p>◇環境問題への取り組みがなされているか</p>	<p>◇知的障がい者 1名の清掃業務への雇用を再委託先で実施。</p> <p>○府民協働による事業の充実 NPO 法人フィールドミュージアムトーク史遊会と協働し、古墳の見学会、講演会などの館外活動を実施、予定している。</p> <p>◇近鉄ビルサービスにより館内外の清掃、塵芥処理、館内空気環境測定を行い適正に環境を維持している。</p> <p>◎自己評価 「こころの再生」府民運動への協力等の提案に沿った事業の推進に努め、子どもとのコミュニケーションを深めるきっかけづくりを応援した。また、就労困難者の雇用によって、行政の福祉化の推進に寄与することができた。地元NPO 法人とも協働し、博物館活動をより充実することができた。</p>	<p>◇就職困難者等の雇用・就労支援の実施が実施されているか 計画どおりの雇用がなされている。</p> <p>○府民協働による事業の充実 NPO 法人と協働した多様な事業が実施されている。</p> <p>◇環境問題への取り組みがなされているか 適切に実施されている</p> <p>◎府施策との整合 すべての評価基準を満たしている。また、「百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録推進事業への協力」では、企画展の実施、館内外での講演会やワークショップの実施等、多種多様な事業が実施されている。「こころの再生」府民運動への協力」でも、月ごとに内容を変えたワークショップが実施されていることから、全体として計画を上回る実施状況と評価できる。</p>	
--	---	---	---	--

評価項目	評価の基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言
			S~C		S~C	
II さらなるサービスの向上に関する事項	(1)利用者満足度調査等	<p>◇利用者満足度調査の実施により利用者の意見を把握し、その結果を運営に反映しているか</p> <p>○利用者満足度調査の実施 ・調査実施回数 4 回</p> <p>○利用者満足度調査の実施 年間 4 回の調査を実施、予定しており、満足、やや満足との回答は 9 割を超えている。アンケートの声を反映し、展示では解説シートの作成や音声ガイドの案内の充実を図ったほか、施設に構造に対する不満意見を反映し、職員のアテンドによる軽減を図った。</p> <p>◎自己評価 立地や施設の構造を除くと、比較的高い満足度を維持している。また頂いたさまざまな意見のうち、即時に対応が可能なものについては臨機応変に対応した。よって、利用者満足度調査等に対する達成状況はおおむね良好である。</p>	A	<p>○利用者満足度調査の実施 3 月までに計 4 回の実施が予定されており、評価基準を満たす見込みである。</p> <p>◎利用者満足度調査等 評価基準を満たしている。また、実施ごとに結果のまとめ・分析・共有がなされ、利用者の意見を反映した管理・運営の改善につながっている。</p>	A	施設所管課の評価は妥当である。
	(2)その他創意工夫	<p>◇その他指定管理者によるサービス向上につながる取組み、創意工夫が行われているか</p> <p>◇地域の大規模イベントである「かなんフェス」の会場誘致を行った。年度末に向けてうめまつり、さくらまつりなども実施予定である。</p> <p>◎自己評価 地域の大規模イベントである「かなんフェス」の会場誘致を行い、より広範な利用者の来館を得た。年度末に向けてうめまつり、さくらまつりなどにより、博物館そのものを目的とはしない利用者の来館動機を高める試みを行っている。</p>	A	<p>風土記の丘を活用した広範に利用者呼び込む取り組みが実施されている。</p> <p>◎その他創意工夫 新たな来館者を呼び込む工夫がなされており、評価基準を満たしている。</p>	A	施設所管課の評価は妥当である。 今後、新たな来館者の満足につながる工夫も検討されたい。
III 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目	(1)収支計画の内容、適格性及び実現の程度	<p>◇事業収支について、計画どおりに実施されているか</p> <p>◇予算の範囲内で効果的かつ効率的な事業運営ができる事業計画を立案し、かつ、予算支出にあたっては費用対効果を勘案しつつ、比較見積りでの経費節減等を行いながら、最小経費で執行した。</p> <p>◎自己評価 予算の範囲内で効果的な事業計画を策定し、その執行に当たっては経費節減に留意し収入・支出のバランスの取れた事業を進めることができた。</p> <p>収支計画（4 月当初予算）</p> <p>収入</p> <p>大阪府委託費 135,367,000 円</p> <p>入館料収入 5,678,000 円</p> <p>支出</p> <p>施設維持管理費 48,565,000 円</p>	A	<p>予算の範囲内で事業運営がなされている。</p> <p>◎収支計画の内容、適格性及び実現の程度 経費削減に取り組みながら、予算の範囲内で充実した事業が実施されており、評価基準を満たしている。</p>	A	施設所管課の評価は妥当である。

		<p>人件費他 92,408,257 円 よって収支のバランスがとれている。</p>				
(2)安定的な運営が可能となる人的能力	<p>◇必要な人員数及び人材を確保・配置のうえ、適切に事業が実施されているか</p> <p>◇従事者への管理監督体制・責任体制が整備されているか</p>	<p>◇提案に沿った人員を博物館に配置し、事業計画に沿って適切に事業を実施した。</p> <p>◇大阪府文化財センター本部における幹部会議、博物館定例会議、文化財保護課との連絡会議（いずれも月1回）及び博物館内連絡調整会議（週1回）を開催し、事業情報の交換、入館状況、注意事項等の周知を図り、責任体制を明確にし、設置者及び法人本部からの適切な指導・管理監督体制のもとに円滑な組織運営を行った。</p> <p>◎自己評価 博物館の運営を効率的に進めるために必要な職員を、博物館と本部に配置し、適正な管理監督体制・責任体制を維持しながら、適切に事業が実施できた。</p>	A	<p>◇必要な人員数及び人材を確保・配置のうえ、適切に事業が実施されているか 適切な人員配置により、充実した事業実施がなされている。</p> <p>◇従事者への管理監督体制・責任体制が整備されているか 関係者間で日常的に密な連絡調整・情報共有がなされ、明確な管理監督・責任体制のもとで管理・運営がなされている。</p> <p>◎安定的な運営が可能となる人的能力にかかる評価 必要な人員の配置による確実な管理監督体制のもと、適切な業務が実施されていることから、評価基準を満たしている。</p>	A	施設所管課の評価は妥当である。
(3)安定的な運営が可能となる財政的基盤	<p>◇法人の財務状況は適切か</p>	<p>【大阪府文化財センター】 大阪府内の発掘調査の受託事業や博物館の管理運営を、スリムな組織体制と経費節減の徹底により安定的に経営している。</p> <p>28 年度事業収入 673,817 千円 28 年度事業活動収入 733,823 千円 28 年度法人の基本財産 116,700 千円 28 年度正味財産期末残高 1,592,815 千円 借入金なし</p> <p>【近鉄ビルサービス】 近鉄グループのビル物件等を中心に、地方公共団体や民間企業の施設維持管理業務等を受注し、さらに徹底したコスト削減により安定的収益を維持している。</p> <p>28 年度売上額 19,547,717 千円 28 年度純利益 517,898 千円 借入金なし</p> <p>◎自己評価 両法人ともに経営規模・事業規模・組織規模及び財務状況において、博物館の安定経営が可能となる体制を維持した。</p>	A	<p>大阪文化財センター、近鉄ビルサービスとも、収入や売上高の著しい減少はみとめられず、借入金もない。</p> <p>また、近鉄グループホールディングス株式会社についても大きな変動はみとめられない。</p> <p>◎安定的な運営が可能となる財政的基盤にかかる評価 グループの各構成員、構成員の親会社とも安定した経営状況にあり、評価基準を満たしている。</p>	A	施設所管課の評価は妥当である。

※評価の基準：評価は下記の4段階評価とする

S：計画を上回る優良な実施状況 A：計画どおりの良好な実施状況 B：計画どおりではないが、ほぼ良好な実施状況 C：改善を要する実施状況